

Title	質疑應答
Author(s)	
Citation	地球 (1924), 1(3): 282-285
Issue Date	1924-04-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/182645
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

因に關しては丹波高原のこの一角がいかに浸蝕されたるかを論じ北部と南部の自然的差異より植林事業惹いては人文の差に及び第三章郡治の部門に於ては王朝時代續日本紀や和名抄に見えた郷名のこの郡内に存するものを考定し鎌倉時代以後の莊園關係よりいかに本郷の木村が京都の皇室をはじめ諸寺邸宅に利用されたかといふ事をのべて最近世史に及び交通や社寺や統計をはじめ農業林業の現状をのべて第三編の各村誌には郡内に存する社寺建築美術品の目星しきもの四十七枚のコロタイプを挿入し更に史料附録を加へて七三三頁の大冊になった、京都市立第一女學校教諭小酒井儀三氏が協力執筆の結果である、卷末別に精細な地形圖があり表紙はクロースで山岳重疊の模様を出してある、裝釘極めて高雅、近時稀に見る郡誌である、蓋し郡誌は單に歴史家にのみ任して置くべからざるもので此書の如く必ず地理學者を煩はすべきもの否歴史家と協力せしむべきものであると信する。(小牧)

質疑應答

最近の文檢試驗問題に關して各種の質問に接し本欄記者は其應接に遑がないから、こゝに一括して參考書の類を報告することにした。

一、紀伊半島の自然地理

答 小川琢治著近畿地方の土地と住民(京都府教育會發行)の中

に左の如く述べてある。

近畿地方は地貌上三地區に分かれる、南區は紀伊山系と呼ばれて居る、紀伊山系は水成岩から成つた山嶽で日本群島に褶曲作用の起つた時に出来た褶曲嶽の一部である、此褶曲作用は日本海側から加つた横壓力で起つたのであるから、日本の外帶山脈として區別せられて居る。而して此褶曲の走向は壓力の方向と直角に走つて居て、略東微北から西微南に互つて居る大きな河の流路は、此の走向に従つて縦谷を成したものが多く、西岸の紀伊、在田、日高の諸川、東岸楠田、宮川は何れも之に屬して居るが就中著しいのは紀伊川で古生層及び結晶片岩の向斜層を成した地方の北側に沿うて流れて居る、又た山嶽も東西の走向を持て南北兩斜面の分水界をなつて居るものが多く西側で其著しいものは和泉山脈蘇坂嶺、鹿ヶ脊嶺東側の宮川、楠田川及び其支流の縦谷間の多くの判然と走向に従つた分水嶺である。吉野川上流及熊野川は此走向を横斷した所の橋谷で其成因は南北の走向の断裂線に關係があるを考へられる。之を成因を同くしたのは、吉野山脈、半島の最高峰は此方向に列峙して居るが是は南北の断裂線に沿ひ噴出した火成岩の山列である、是は大峯山列として區別するのが適當である、紀伊半島は南中東の三部に分たれて居て中部は此の如く東西部と地質構造の關係から大に趣を異にしてゐる。

小川教授の同書はこの地勢成因論の外に丹波江賀兩原の地勢内外氣候の對照等多くの暗示に富んだ良著で、讀者に一讀をすゝめる、猶本問題參考として見るべきものは

鵬水鐵五郎、大臺原山、(地學雜誌、大正六年十二月號)である。

三、ベルギー國の人文地理

答 田中阿歌磨ベルギーの現狀(地學雜誌大正三年十一月十二月號)同氏、ベルギー人と其都府、地學雜誌大正四年)の二文を見よ、自耳國國は人口稠密にして工業極めて活潑に土地平坦にして道路鐵道運河敷設の便多く、世界に於て交通機關の最も密接に存する國と稱せらる國內には古來相正反せる二勢力の爭鬭常に絶へずフラマン人及ワロン人これにしてこの二要素は其起源に於て一部異り言語に於ては全く相異り從つて國內に言語の境界線を引くことを得べく、國境が全く人爲的な故に移動性を有し、或は南に移り或は北に移りし事あり、從つて國境地方に於ける大戰場甚だ多きこと等は、この國の人文地理に注目すべき要點なりとす

三、北アメリカ大陸の氣候帶

答 Tarr Geography 216. 風と雨

Mill: International Geography 674-675.

を見よ。

四、海蝕臺地とは何ぞや

答 辻村太郎著地形學第七篇海蝕輪廻の章を見よ、曰く「海蝕作用の結果海蝕平原が出来、その出来たのが過去で、今日は隆起して臺地になった所を海蝕臺地といふ、三崎の海蝕臺地はそれで、三浦半島の南部に高く隆起せる海蝕臺地の殘部がある第三紀の砂岩又は凝灰岩よりなる武山及大楠山内外の山地は南

方に於て俄然低くなると同時に殆平坦な百米内外の臺地となつて漸次南方三崎の方に傾いて行く而して此平坦なる臺地面は東西の向斜軸背斜軸を以て褶曲する砂岩又は凝灰岩を截斷し其の上に水平層を戴き外部の第三紀層と全く時代を異にする介化石が其中に在る。志摩國の先端先志摩の半島は海蝕臺地の地形を示め、他の一例で長岡村附近淺間山から横山に至る西南に向ひ長さ約七軒の一線によつて百米以上の急崖が南面して聳え北方の中生層よりなる小起伏の壯年山地と以南の低い解剖臺地面とを分つ此はもこの海岸である、海蝕臺地は急に北に傾く中生層を截斷して生じ其上には所々洪積期の堆積物がさ見ゆる砂礫粘土の水平層を載き中に介化石を産する所もある。

かやうに、三崎や志摩の如く其地質が過去の海蝕平原であることを立證する地域の今日は隆起して高くなつてゐる所を海蝕臺地と呼ぶのである。

五、世界に於けるゴムの生産及集散

答 前號の質疑應答欄を見よ。

六、南アフリ加聯邦の政體

答 英領南アフリ加は廣袤百二十萬平方哩人口八百二十萬、英本國の面積に十倍し全歐州の四分の一よりも廣いが、之を南アフリ加聯邦と混一してはならぬ、英領南阿の中には、南阿聯邦の外に南阿聯邦總督の監督の下に高等事務官が支配してゐる、バスターランド、ベチュアナランド、スワジランドの三保護領及英國南阿會社行政の下にある、南北兩ローデシアがあるこの保護領及ローデシアを除いた南阿は千九〇九年に英帝國議會の協

賛を経て發布せられた南阿聯邦憲法により組織せられた、ケー

プオフグードホープ、ナタール、トランスバール、オレンザフ

リーステート、の四州より成立して居るもので法律上一國の植

民地で聯邦議會を有する自治政體の地域であるが、ケープタウ

ンを立法府としブレトリアを其行政府としてゐる。

七、世界に於ける都市密度の特に大なる地方五箇所

○英國マンチエスターよりリバープールの地域、マールシー河下

流地方

○獨逸ウエストフアリア、リッペ河ミール河との中間地域

○米國マサチューセツツよりニュウジヤージーに至る新英蘭海

岸地域

○白耳義及佛國北境地方マース、シエルデ(エスコ)河間

○日本京阪地方

八、世界に於ける海の深さの極めて大なる所

答 Murray: The Depths of the Ocean を見よ海溝の尤も有名

なるものは左の如し

地學雜誌第二十四年二八三號所載

プラネツト號發見

ネロ號發見

ハンガイン號發見

プラネツト號發見

タスカロラ號發見

ミンダナオ海溝 九七八〇米

マリアナ海溝 九六三六米

ケルマデツク海溝 九四二七米

ノイボンメルン海溝 九一四〇米

日本海溝 八五一三米

九、アジアに於ける氣溫の尤も高き地方と最も低き地方

答 七月氣溫華氏九十度以上の地は新疆よりイラン高原をへて

アラビア半島の内部に及ぶ。

一月氣溫華氏〇下六十度以下の寒地はシベリア東北部エルホ

ヤンスク附近。

一〇、コルフ Canal

答 コルフ島は地中海イオニア海島の中尤も大なる島なるが、

アルバニア海岸にあり長四十哩、幅二哩乃至十五哩面積二七平

方哩、一般山地にして半ば橄欖樹繁茂し、風景頗る佳。避寒地

として來り訪ふもの多く、カイセルの別荘などあり、一八一四

年より自由となり一八六四年迄英國保護の下にあり同年希臘に

譲られ、其際の條約にて永久中立の保證を得た。人口十二萬五

千内二萬七千はコルフ市に住す、大部分希臘人なるも伊太利よ

り見ればアドリアアツク海の出口に住し軍事上重要な島にし

て中世には數百年間ヴェニス共和國の領土なりし歴史ある所な

れば、伊國國民の垂涎するも無理ならず。されば大正十二年八

月二十七日朝伊太利より派遣されたるアルバニア國境劃定委員

五名が希臘人らしきものに銃殺せられたるにより二十八日に至

り伊國は雅典政府に峻嚴なる條件を提出要求し其應ぜざるを見

るや八月三十一日伊國政府は突如として伊國艦隊に命じてコル

フ島并に其附近の二小島を占領せしめ希臘人約二十名を殺し、一

時世界の耳目を聳動せり。かくて聯合國は九月五日より連日大

使會議を開き、兩國の間に立ちて之を慰撫し議谷大佐を委員長

とせし査問委員會をヤニナに派遣して伊人殺害の狀を調査し其

結果九月二十七日午前八時伊軍はコルフ島占領を撤去して之を

希臘に引渡し、希臘は五千萬リラの賠償金を支拂ひ、事件は漸

一ヶ月にして落着を告げたり。

一一、中江鎮

答 本層を見るとき測候所の中にこの名が見える零下四十一度一分、日本國內の寒極で旭川よりも一分低い、朝鮮の平安北道慈城郡の北端にあり鴨綠口に沿ふてゐる材木の集散地である。

一二、花咲半島

答 北海道根室國南部にあり東北に突出して知床半島と相對し根室港を抱く、納沙布岬及落石岬に燈臺あり内側に根室港外側に花咲港ありて北海道東廻航路の要衝に位す、其落石無線電信局は太平洋航路及米國布哇に對する通信機關として樞要の地位を占めたり。

「本試験問題の擬答は次號に譲る」(藤田)

新著題目(2)

考古學

日本有史以前の山岳住民及び其の生活に就て

島居龍藏

類人

雜誌 三九ノ一〇

羽後國本莊町附近の石器時代遺跡

松田又彦、阿部正己

同

上

地震

震災と漁業 田子勝彌

地學雜誌 三六ノ四
二〇〇十三年二月

埼玉縣東部地方に於ける震害 同上

雜報

鑛山及鑛床

タングステン鑛の成因に就て 本多敬一

朝鮮鑛業會誌 七
ノ一〇十三年三月

遂安金鑛の現狀 鈴木哲郎 同上

青海道黃州郡天柱面黒橋面の絹鐵鑛床 市區毅 同上

本邦の石炭鑛業(英文、井上禮之助) 地學雜誌 三六ノ四二一
〇十三年三月

編輯便り

□本誌發行以來印刷界の繁忙に掣肘されて意の如くならず毎號後くれ勝にありましたので次號を四、五號倍號として五月十一日頃に出版し、六月以後毎號期日あやまらぬことにしたいので、豫めお断りして置きます。

□次號には小川博士の深發地靈の本性は完結し別に本間學士の實地踏査の結果を丹澤山塊の地質構造として載せることにしました。朝鮮のオルドビスアン、濱名湖の象化石、黒鑛の放射能など、いろいろ地質學上に注目すべきものを集めました。

□本誌は夏季の特別號として溫泉號を出版しやうと思つてゐますから、各地方の溫泉に關する記事寫眞報章等を歡迎し、特に團員諸君の奮つて協力投稿あらんことを願する。